

# 日本学広場 88話 目次

まえがき―身近な「日本学」―…………… 2

## I かんせいPLAZAより

- 1 「日本のソフトパワー」再発見…………… 18
- 2 元正女帝も若返られた養老の「菊水」…………… 19
- 3 立春水を献上してきた武儀の「森水」…………… 21
- 4 「大切なことを学ぶ会」の濟州島訪問…………… 23
- 5 後桜町女帝二百年祭の御進講に寄せて…………… 26
- 6 『日本年号史大事典』編纂こぼれ話…………… 27
- 7 モラロジー研究所における学び二題…………… 29
- 8 柳田国男創案の靖國神社「みたま祭」…………… 32
- 9 京都新聞「教育社会賞」の受賞を機に…………… 33
- 10 吉田松陰の伝える「神を拝む心」…………… 35
- 11 美濃出身の長原武と吉田松陰…………… 37

- 12 吉田松陰から梁川星巖への献策…………… 40
- 13 終戦当時の少年皇太子と疎開少女…………… 45
- 14 熊本の菊池神社と加藤神社に参拝…………… 47
- 15 萩市立博物館と松陰神社「至誠館」…………… 49
- 16 乃木神社の摂社「正松神社」…………… 51
- 17 小田原で学ぶ二宮金次郎尊徳…………… 53
- 18 賀茂別雷神神社の式年遷宮ネット中継…………… 58

## II 『月刊朝礼』日本学広場より

- 19 ベストを尽くす「箱根駅伝」声援…………… 62
- 20 「親族を睦じくする事、大切なり」…………… 63
- 21 「山の日」は有意義、八月十一日は無意味…………… 66
- 22 富岡製糸場の偉業から学ぶこと…………… 69
- 23 皇室永続に多様な英知総合の秋…………… 71
- 24 信念を貫き通した「歴史神学者」…………… 74
- 25 累代教育の身近な以心伝心…………… 76



揖斐川にいたというカッパ川太郎  
平成17年7月27日。所京子画

26	大磯の澤田美喜と吉田茂の記念館	78
27	「建国記念日」の意義と問題点	81
28	東日本大震災から何を学びえたか	84
29	パラオとフィリピンの慰霊行幸啓	86
30	カモのカミのヤシロとアフヒのマツリ	88
31	「品性」とは凛々しさの表れか	91
32	吉田松陰と熊本志士の宮部鼎蔵たち	93
33	昭和二十年八月の御聖断と玉音放送	95
34	東宮御教育常時参与の小泉信三に学ぶ	98
35	全国育樹祭への皇太子殿下行啓	100
36	近世・近代の雅な京都大札記念展覧会	103
37	今上陛下のお務めと高齢譲位への道	106
38	年賀状の年表記は公的な元号優先で	108
39	ヤマト朝廷による日本建国過程	111
40	「摂政」も「臨時代行」も天皇に及ばない	113
41	神武天皇の御陵と宮中の式年祭	115
42	四国に遷幸された土御門上皇の遺蹟歴訪	118
43	G7サミット首脳の「神宮訪問」所感	121
44	伊勢の「神宮」には「ノ」がない	123
45	皇室永続の可能性を拡大する試案	126
46	ソロモンの佐藤行雄さんとの出会い	128
47	乃木希典大将と清水澄博士の墓碑	131
48	元気な後期高齢者の新しい生き甲斐	134
49	「沖繩遺骨収集ボランティア」に参加して	136
50	三度目・最高齢の皇居勤労奉仕	138
51	大正大嘗祭の悠紀・主基斎田と荒妙貢進	141
52	盲目の国学者塙保己一「世のため後のため」	144
53	今秋「京都の御大札」特別展覧会を主催	146
54	野口英世博士を大成させた慈母と恩師	149
55	定年後の恩返しと余生の楽しみ	151
56	上野三碑の伝える千三百年前の記憶	154
57	新しい皇室の構成と絶大な役割	157



家内が随想集「ゆづりは」に描いた挿絵「譲葉」平成28年5月6日

58	津川雅彦さんとの出会いとお別れ	159
59	昭和天皇ご直筆の「大御歌」草稿発見	162
60	日本人となられたキーン先生の想い出	165
61	新元号「令和」誕生の画期的な意義	167
62	水運史のご研究から世界的な水問題にご貢献	170
63	病院は高齢化社会の在り方を考える道場	173
64	即位礼の「おことば」と大嘗祭の「御告文」	176
65	令和大嘗祭の神饌・神服と庭積机代物	178
66	令和元年「大礼」の秋「日本学賞」を拝受	182
67	還暦を迎えて耀く今上陛下の歩み	184
68	千三百年前に撰上された『日本(書)紀』	187

### Ⅲ 月刊『歴史研究』より

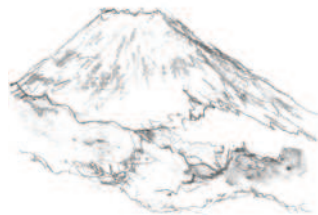
#### 〈喜寿余話〉

69	その(一)母の想い出 父の面影	192
70	その(二)小中高大の親友・学友	196

71	その(三)人生・学問の恩師たち	200
72	その(四)大学に勤めて半世紀余の幸せ	203
73	その(五)「連れ合い」との五十年	207
74	その(六)定年後の七年近い歩み	210

#### 〈巻頭随想〉

75	その①花開く「京都の御大札」特別展覧会	213
76	その②「平成」の意義と新元号への期待	214
77	その③みんなで歌う母校の校歌	216
78	その④高尚な「道楽」の歴史研究	218
79	その⑤「平成」宮中歌会始カレンダーの試み	219
80	その⑥御在位三十年記念式典の「おことば」	221
81	その⑦元号考案者目加田誠博士の郷里墓参	222
82	その⑧近現代のユキ・スキゆかりサミット	223
83	その⑨大札記念に『光格天皇関係絵図集成』	225
84	その⑩ふるさと揖斐川町の可能性	227
85	その⑪天武天皇朝「新嘗斎忌」ゆかりの神社	229



JR 国府津駅から見える富士山  
令和2年2月23日、所京子画

86	その⑫ 即位礼に花を添えた海外王家の方々	230
87	その⑬ 皇室永続に必要な改革試案	232
88	その⑭ 生まれ育った「家の履歴書」	234

あとがき―わが家の「朝礼」―	236
----------------	-----

## 著書（単著・共著・編著・校注）目録

〈目次分類〉 Aは内容的に若干の重複もあるが、時系列の進行・変化を理解していただきたい。

A 皇室関係論	2	5	13	23	27	29	33	34	35	37	39	40	41	42	45	50	51	58
B 人物関係論	1	3	4	6	7	9	18	19	21	22	28	30	31	36	38	43	44	48
C その他の論	8	10	11	12	14	15	16	17	20	24	25	26	32	46	47	52	54	58
	60	69	70	71	72	73	81											

※本文中の年号は元号や名称・役職などは掲載時のままとした。

# I かんせいPLAZAより



召集を受け出征当日の父所久雄（29歳）と母かなを（26歳）と功（生後7カ月）。昭和17年7月25日  
岐阜県揖斐郡小島村の自宅前。坪井写真館撮影